

学校の教育目標

人権教育を基盤として、児童の自律的な学習・生活態度の育成を目指し、学校・学年・学級経営を充実させ、児童自らがよりよく生きる力を伸ばす教育活動を展開する。各教科等の指導を通して、学力向上を図り、意欲的に学び、よく考え、自信をもって考えを表現できる児童の育成を目指す。

- ◎考える子(社会適応力) ○助け合う子(人間形成力) ○元気な子(行動実践力)



学校経営方針

目指す学校像 『笑顔がいっぱい、西落合小学校』

目指す児童像 『意欲的に学び、よく考え、自信をもって考えを表現できる子』
『しっかり話を聴く、最後まで聴く、規律正しく整然とした態度で学習する子』

学力向上にかかわる学校経営方針

- ◎自ら学ぶ意欲をもち、時代の変化や社会の要請に対応できる力を育てる。(社会適応力)
- ①指導やねらいを明確にした学習活動を充実させる。
- ②学年に応じた基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。
- ③言語活動の充実やICT機器の活用を推進する。
- ④主体的で対話的な深い学びの充実に努める。
- ⑤思考力・判断力・表現力の伸長を図る。
- ⑥保護者や地域学校協働本部(学校応援団)との連携を深め、学習習慣の定着を図る。
- ⑦主体的に学ぶ意欲の向上を図る。

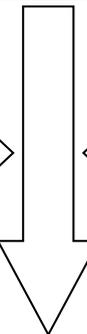
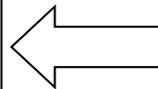
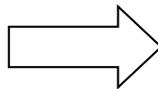


学力向上のために「身に付けさせたい力」

- ◎他の人と協力し合って課題解決に取り組むことのできる力
- 自らの興味・関心や目的・目標を大切に、進んで学ぼうとする態度
- 中学校での円滑な学習のベースとなる基礎的・基本的な知識・技能
- 言葉や図表等を用いて、筋道を立てて考え、表現する力
- 他者を尊重し、互いの考えを建設的に伝え合う力

児童の実態

- 学習に対する関心・意欲がある。
- 学び合う姿勢をもっている。
- 基礎的な知識・技能が比較的身に付いている。



児童の実態

- 文章の中心や情景を捉えることに課題がある。
- 資料を比較したり整理したりして考えることに課題がある。
- 日常生活と離れた大きな数や量感、自然の事象について、正しい知識や感覚を身に付ける必要がある。

「身に付けさせたい力」の向上に向けた視点と方策

授業改善	教育課程編成上の工夫	家庭や地域社会との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・指導目標と評価規準の明確化 ・問題解決型の学習やグループ学習の実施 ・言語活動、話し合い活動等を重視した授業展開の工夫 ・講師を招聘した授業の実施 ・OJT研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の定着と関連付けや繰り返しと系統性を念頭においた指導 ・学んだことを生かすことができる学校行事等の設定 ・東京ベーシック・ドリル週間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題(授業)と家庭学習の連携 ＝毎日、10分×学年の学習時間 ・家庭や地域で過ごす時間の充実 家庭で目標を設定する「ノーテレビ・ノーゲーム週間」の実施 ＝児童館との連携 ＝読書週間と連動した取組 ・学校応援団や企業等外部の教育力の活用 ・地域未来塾での東京ベーシック・ドリルの活用